



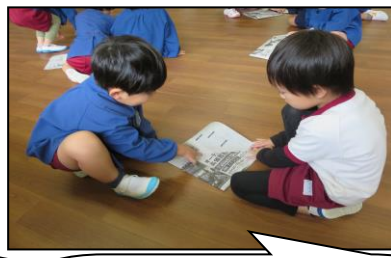
今回は、本年度の具体的な取組「④友達や異年齢児と関わり、互いの思いに気付くような「ピア・サポート」の実践を行う。」についてお知らせします。昭和地区にはおひさまがあり、学年の異なる幼児が、互いの名前と顔が分かり自然に関わる姿が見られます。すべての幼児が、人と関わる際、どのような目線で、どのような言葉で接すると互いが気持ちよく過ごすことができるかを考え、経験することができるように取り組んでいます。

本年度の具体的な取組

- ① 幼児の思いや姿から成長につながるような義務教育学校との交流を行う。
- ② 幼児が「やってみよう」と思うような遊びの環境をつくり援助を行う。
- ③ 基本的な生活習慣が身に付くように「きらきらカード」の活用や指導を行う。
- ④ **友達や異年齢児と関わり、互いの思いに気付くような「ピア・サポート」の実践を行う。**
- ⑤ 昭和地区のよさや地域の人の優しさ、温かさを知るような園外保育や交流を行う。
- ⑥ 親子で地域を知ることができるように地域行事への参加を促す。



そら組は、学級活動でかぶとを折りました。難しいところや折り方のコツを自分で体験します。



そら組は、ほし組とペアになってかぶとを折るサポートをします。難しいところを助けます。



雨の日の降園前、そら組は、はな組の保育室に行き、かっぱを着る手伝いをします。



教師が、ICTを活用し、折り方が分かるように全体に示しています。



そら組は、ほし組とペアになり、折り目が付きやすいように折り紙の角を押さえたり、難しいところだけ代わりに折ったりしています。



日々の生活の中でも制服を脱ぐ時ボタンはずしたり、ままとのエプロンを着ける手伝いをしたりする姿が見られます。目線を合わせて声を掛けること、できないところだけサポートすることが大切です。



きりとせん

読まれた感想・ご意見などありましたら教えてください。園長だより4 ()組 園児名()